特別支援教育の扉 №１９９　　令和８年９月10日発行

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター　加賀谷　勝



「放課後児童クラブへ訪問」

「低学年の子どもがルールを守れない」「児童館のスペースの狭さから友達同士のトラブルが絶えない」などの困り事に、どのように対応するのがベターなのか？ベストなのか？アドバイスがほしいという依頼を受け、ある放課後児童クラブを訪問しました。

１　参観の様子

・学校の規律から解き離れた子どもたちの大きな話し声や笑い声が飛び交い、とても賑やかな雰囲気だった。
・45人前後の子どもたちが仕切りのない狭い３つの部屋に分かれて、宿題をしたり、好きな遊びをしたりするなど自由に楽しく過ごしていた。。
・注目してほしくてわざと大きな声を出す子ども、友達とトラブルとなってしくしく泣いている子どもなど、いろいろな表情を見せた。

２　今後の対応について

（１）過ごしやすい環境設定について

・アコーディオンカーテン、間仕切り用カーテン、のれん等を取り付けて刺激を減らし、集中できる学習環境を用意する。
・不安定になったときに、落ち着いてクールダウンできる居場所を確保する。
・「部屋を走らない」「大声を出さない」などの否定形ではなく肯定的なルールに変える。
・ロッカー等に名前を付けて持ち物の管理や紛失防止、出欠確認をできるようにする。
・メリハリを付けて過ごせるように、児童クラブの大まかなスケジュールを掲示する。
・上級生は下級生のよきモデルとなり、下級生は上級生に憧れる関係性を築く。
・支援員の役割を明確にし、子ども健康管理や安全確認、活動の状況把握に努める。

（２）友達同士のトラブルが発生したときの対応

・トラブルを学びに変えるために、どうしたの（状況の確認）、どうしたいの（気持ちの確認）、どうしたらいい（対応策を一緒に考えたり、選択肢を与えたりする）など、お互いの話を共感的に聴きながら、主体的に仲直りするプロセスを体験させる。

（３）ルールを守ることへの対応

・全員がルールを理解できるように絵や図も提示する、生活年齢に即したルールを設定する、ルールを守る必要性を説明する、ルールを守っているときにその場ですぐほめる。

（４）その他（学校との連絡調整、保護者との連携）

・窓口担当者を決めて、学校との情報交換や情報共有を日常的、定期的に行う。
・保護者と迎えの際の短い立ち話で、「今日の様子（安心材料）」を具体的に伝える。





とれたて直送便

【特別支援学級に決めました！】

ある中学校での学校見学の一コマ。教頭先生が校内を案内しながら、丁寧かつ笑顔で授業や特別支援学級の教育課程を説明したり、校内の掲示物を基に特色ある取組を紹介したりしました。見学後の「質問コーナー」で、校長先生の説明を聞いている保護者の表情がだんだんと明るくなっていくのが分かりました。一人一人のニーズに合わせた幅の広い特別支援教育を学校の真ん中に位置付けていることを知った保護者は、わが子を見ながら、「就学先でずっと悩んでいましたが、この中学校の特別支援学級に決めました」と、晴れやかな表情で話していました。隣にいた子どもは笑顔で応えていました。就学相談はこれからが本番です。子どもがもてる力を発揮できる学びの場を選択できるように、客観的な情報提供と的確なアドバイスを目指します。